

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 明治大学

(2) 大学名

明治大学大学院

(3) 大学の位置

〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(ナガホリ モリヒロ) 長堀 守弘 (平成20年4月1日)		
学長	(ナヤ ヒロミ) 納谷 廣美 (平成16年4月1日)		
大学院長	(ヨシムラ タケヒコ) 吉村 武彦 (平成20年4月1日)		
研究科長	(ヤマイズミ ススム) 山泉 進 (平成20年4月1日)		

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
教養デザイン研究科 教養デザイン専攻 (博士後期課程) 博士(学術)	3年	4人	12人	基礎となる学部等 教養デザイン研究科 教養デザイン専攻 (修士課程)

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区 分	報告年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	4	—	4	—	4	—	0.62倍	
	()	()	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
	[]	[]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]		
志願者数	()	()	4	—	3	—	()	()		
	[]	[]	(2)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
	[]	[]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]		
受験者数	()	()	3	—	3	—	()	()		
	[]	[]	(2)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
	[]	[]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]		
合格者数	()	()	2	—	3	—	()	()		
	[]	[]	(2)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
	[]	[]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]		
B 入学者数	()	()	2	—	3	—	()	()		
	[]	[]	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
	[]	[]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]		
入学定員超過率 B/A			0.5		0.75					

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[]	[]	[-] 2	[-] -	[-] 3	[-] -			
2年次			[]	[]	[-] 2	[-] -			
3年次					[]	[]			
計	[]		[-] 2		[-] 5				

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
(主な退学理由)			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [0]	0.00%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
うち平成22年度入学者 0 人	うち平成22年度 2 人	(主な退学理由)	

2 授業科目の概要

<教養デザイン研究科 教養デザイン専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース必修科目	研究論文指導Ⅰ	1前	2			12 13	0 1					鈴木将久平成22年4月1日教授昇格のため(22) 王楽平教授病気休職のため担当せず(22, 23) 櫻井直文特別研究のため担当せず(23)
	研究論文指導Ⅱ	1後	2			12 13	0 1					
	研究論文指導Ⅲ	2前	2			12 13	0 1					
	研究論文指導Ⅳ	2後	2			12 13	0 1					
	研究論文指導Ⅴ	3前	2			12 13	0 1					
	研究論文指導Ⅵ	3後	2			12 13	0 1					
コース必修科目	倫理学特別研究	未開講 1・2・3前	2			0 1						1名特別研究のため担当せず(23)
	哲学特別研究	1・2・3後	2			1						通常開講(23)
	宗教学特別研究	1・2・3後 1・2・3前	2			2 1	2					時間割調整のため(22) 当該分野を専門とする入学者が見込めなかったため1名担当せず(22)
	思想史特別研究	1・2・3後	2			1						時間割調整のため(23)
	文化理論特別研究	1・2・3後 1・2・3前	2			2 1	0 1					時間割調整のため(22) 山岸智子平成22年4月1日昇格のため(22)
	地域文化特別研究	1・2・3後 1・2・3前	2			1 3						1名在外研究のため(23) 当該分野を専門とする入学者が見込めなかったため1名担当せず(23)
	言語文化特別研究	1・2・3後	2			1	1					時間割調整のため(22)
	平和構築特別研究	1・2・3後 1・2・3前	2			2 3						時間割調整のため(22) 王楽平教授病気休職のため担当せず(22, 23)
	地球環境特別研究	1・2・3前 未開講 1・2・3前	2			2						通常開講(23) 当該分野を専門とする入学者が見込めなかったため未開講(22)
	科学技術史特別研究	1・2・3後	2				1	1				勝田忠広平成22年10月1日昇格のため(23)

共通選択科目	現代教養総合研究 I	未開講 1・2・3後		2	2				入学者が少なく、全コースに在学者が見込めなかったため未開講 (22, 23)
	現代教養総合研究 II	未開講 1・2・3後		2	1				入学者が少なく、全コースに在学者が見込めなかったため未開講 (22) 通常開講 (23)
博士後期課程プロジェクト系科目	先端数理科学 I-A	1前			2				英文証明を考慮し科目名称変更 (23)
	先端数理科学 II-B	1後			2				英文証明を考慮し科目名称変更 (23)
	Advanced Mathematical Sciences I-C	1前			2				英文証明を考慮し科目名称変更 (23)
	Advanced Mathematical Sciences II-D	1後			2				英文証明を考慮し科目名称変更 (23)
	日本古代学 (考古学) I	1前			2				
	日本古代学 (考古学) II	1後			2				
	日本古代学 (歴史学) I	1前			2				教育課程充実を図るため、科目追加 (22) 担当: 加藤友康 (特任教授)
	日本古代学 (歴史学) II	1後			2				教育課程充実を図るため、科目追加 (22) 担当: 加藤友康 (特任教授)
日本古代学 (文学) I	1前			2				教育課程充実を図るため、科目追加 (22) 担当: 神野志隆光 (特任教授)	
日本古代学 (文学) II	1後			2				教育課程充実を図るため、科目追加 (22) 担当: 神野志隆光 (特任教授)	

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 16	科目 2	科目 6	科目 24	科目 16 [0]	科目 2 [0]	科目 10 [4]	科目 28 [4]	博士後期課程プロジェクト系科目の追加による増加 (22)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	現代教養総合研究 I	2	1・2・3前	—	選択	全コース横断的な内容を予定していた科目。入学者が2名と少なく全コースに在学者がいないため
2	倫理学特別研究	2	1・2・3前後	—	コース必修	担当教員が特別研究期間のため。
3						

1	該当なし					
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目について、配当年次が全学年に亘っているため、在学中に履修の機会は確保され学生への不利益はないと考えている。学生には、新年度ガイダンスとシラバスで周知した。(22, 23)

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \frac{2}{24} = 0.08$$

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	238,187㎡	0㎡	0㎡	238,187㎡				
	運動場用地	368,691㎡	0㎡	0㎡	368,691㎡				
	小 計	606,878㎡	0㎡	0㎡	606,878㎡				
	そ の 他	307,144㎡	0㎡	0㎡	307,144㎡				
	合 計	914,022㎡	0㎡	0㎡	914,022㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	280,781㎡ (280,781㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	280,781㎡ (280,781㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	教室：用途変更による修正 (22) 用途変更による修正 (23) 職員：配置変更による修正 (22) 配置変更による修正 (23)			
	249室 241室	164室 158室 164室	385室 381室	29室 30室 158人 160人 (補助職員-150人)	23室 18人 (補助職員-20人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教養デザイン研究科 (博士後期課程)			24 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	購入による増加 (22)	
		教養デザイン 研究科	216,300 [109,600] (215,100 [108,900])	1,971 [712] (1,971 [712])	6ヶ月間9,197タイトル 6ヶ月間9,197タイトル	39678 38276 (38849) (38276)	0 (0)		0 (0)
	計	216,300 [109,600] (215,100 [108,900])	1,971 [712] (1,971 [712])	6ヶ月間9,197タイトル 6ヶ月間9,197タイトル	39678 38276 (38849) (38276)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	23,914㎡		3,110		2,430,416				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	12,449㎡		バレーコート, テニスコート, ゴルフ練習場, プール等						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	1,813千円	1,871千円	図書購入費	68千円	80千円	109千円	
	共同研究費等	81,069千円	83,684千円	設備購入費	— 千円	196千円	328千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		800千円	520千円	520千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金, 資産運用の果実及び寄附金その他の収入をもって維持運営する						

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (23年2月)	文学部心理社会学科の入学定員超過の是正に努めること。	平成23年度入試から入学定員を増員する等，是正に努めている。その結果，定員超過率は是正されている。 (平成23年度入学定員超過率0.99，4年間の平均入学定員超過率1.24)	
設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月)	留意事項なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

7 その他全般的事項

<教養デザイン研究科 教養デザイン専攻>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	<p>キャンパス内に新図書館建設工事の影響により、学生の修学環境を改善するため、大学院生共同研究室（自習室）を移転した。規模・座席数の変更なし。(23)</p>

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

本方策については、2008年度に開設した博士前期課程における方策に準じて展開している。

a 委員会の設置状況

- 全学的な教育支援体制に係わる諸政策の立案およびその推進を通じて、組織的且つ継続的に教育内容および教育方法の改善を行うことにより、効果的な教育活動の実践を支援・促進することを目的として、明治大学教育開発・支援センターが設置されている。

また、本研究科においても、学長の下にある自己点検・評価全学委員会の方針に基づき、教育研究活動、またその環境を点検することは、当然に行なわれなければならないことである。それは執行部において集約されることになる。特に開設後、学生の教育・研究水準や彼らのニーズを反映した新たな教育プログラムの導入と実施に取り組み、博士前期課程学生を主に対象とした映像資料プログラム、エクスカージョンなどを実施し、博士後期課程学生にも参加を促している。

また、本研究科内にFD委員会を設置し、日常的に教育内容や方法に関する点検作業を行い、教育プログラムや技法の改善の実現化へと不断に結びつけていくことが重要であると考えている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- 新規教育プログラムなどに関しては、主として執行部が主導しており、執行部会議は隔週で開催されている。

c 委員会の審議事項等

- FD委員会においては、学生による授業アンケートの実施の検討を行った。

② 実施状況

博士後期課程は2010年度に開設したばかりであるが、前期課程に引き続き、教員の資質の維持向上に努める。下記のとおり、中間発表会などを実施した。

a 実施内容

・中間発表会の実施

本研究科では、円滑な研究活動と修業年限内での博士論文の執筆を促進するために、各年次に、中間発表会での報告を義務づけている。学生の中間発表会に教員が参加することによって、研究指導・研究内容に関する間接的な相互研修機能を持たせている。2010年度は、1年生2名が下記のとおり、報告を行った。

第1回目（2010年11月25日）

対象：博士後期課程1年生（2010年度入学生）

「倫理・哲学・宗教」領域研究コース：報告者1名。

「平和・環境」領域研究コース：報告者1名。

- b 実施方法
- ・中間発表会の準備
指導教員は研究論文指導（演習）を通じて、後期に開催する中間発表会に向けた指導を行う。
 - ・中間発表会での発表
10月下旬に、各領域研究コースで開催される中間発表を行い、発表内容について、本研究科担当の教員全員からコメントなどを受けることにより、教員相互で評価されることになる。
- c 実施予定
- ・第1回・第2回目合同で実施（2011年10月29日予定）
対象：博士後期課程1.2年生（2010年度・2011年度入学生）
「文化」領域研究コース：報告者4名。
「平和・環境」領域研究コース：報告者1名。
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
指導教員は、教員全員から受けたコメントを参考に後期の研究指導を行い、3月上旬に、学生が6月初めに提出した「研究計画書」の1年間の到達状況を確認する。

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教養デザイン研究科は、「知識基盤社会」を支える「柔軟な思考」や「深い洞察力」を備え、倫理意識と人権感覚を持って主体的に行動できる人材の養成を目指している。教育研究のテーマとして「人間性とその適正な環境の探究」を掲げ、人文・社会・自然科学の諸分野にまたがる総合的・学際的な研究科を目指している。

「人間性」の探究においては、人間の生から死に至る生命活動を対象とし、生や死の意味、人間のコミュニケーションやイマジネーションなどの諸能力の本来のあり方を研究テーマとする。倫理学、哲学、宗教学、思想史などの学問分野が対応する。また、「適正な環境」の探究としては、「文化」と「平和・環境」を対象とする。「文化」領域における研究は、文化理論と地域文化、言語理論等を研究テーマとするが、現代文化の底流にある葛藤や軋轢、あるいは差別を克服し、多文化間におけるコミュニケーションを可能とする共生社会の実現が、いかにして可能であるかを考察する。人文系分野が対応する。「平和・環境」領域における研究は、地球環境の破壊、技術の進展と安全性に関わる自然科学分野、社会的格差（貧困）や紛争の平和的解決などを研究分野とする。開発論（経済学）や平和構築論などの社会科学分野が主として対応する。

これらの研究分野を、履修上は「倫理・哲学・宗教」、「文化」、「平和・環境」の3領域研究コースに分ち、主たる領域研究コースと他コース科目とが総合的に学習できるシステムを作っている。また、研究指導においては、他コースの副指導教員を選定し、総合的な指導ができるように配慮している。

このような設置の趣旨と目的の達成状況は、「自己点検・評価報告書」において点検・評価され、「年度計画書」において改善策を講じている。これらの点検・評価・改善作業を通してみれば、開設後3年間の経験において、設置の趣旨と目的は十分に活かされていると判断できる。今後、後期課程も継続していけるよう尽力する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成24年3月 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価の結果をホームページで公表し、広く学内外から結果に対する意見を聴く体制をとっている。

③ 認証評価を受ける計画

- ・「大学基準協会」の行う大学評価へ申請を行い、2008年3月に大学基準に適合していると認定された。その際に指摘された「助言」をはじめとした様々な課題について具体的な改善策のアクションプランを作成するとともに、定期的な認証評価の申請に対応する体制作りを検討している。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (2011年6月公表予定)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(公表した場合、承諾する)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/secchi/>)